

職業能力開発報文誌

投稿のしおり

職業能力開発報文誌編集委員会

編集委員会事務局（原稿送付先）

〒187－0035 東京都小平市小川西町2－32－1

職業能力開発総合大学校 基盤整備センター 企画調整課

職業能力開発報文誌編集委員会事務局 宛

TEL 042－348－5074 FAX 042－348－5098

E-mail fukyu@uitec.ac.jp

「職業能力開発報文誌」募集要綱

制定 2011 年 10 月

改定 2012 年 4 月

- 1 本誌は、出向者を含む高齢・障害・求職者雇用支援機構職員（以下「機構職員」という。）による研究開発活動の充実に資することを目的とし、研究成果を収録公表するための研究機関誌である。収録公表される投稿原稿の内容上の範囲は、職業能力開発研究の学際的性格から、技術・工学及び教育・心理・経済・社会等人文・社会科学系の領域をカバーするが、いずれも職業能力開発との関わりを持つものでなければならない。
- 2 本誌に掲載される投稿原稿は、機構職員によって執筆された、職業能力開発に関する実践・実証的研究を中心とした未刊行の原稿を原則とする。
- 3 本誌の編集は、「「職業能力開発報文誌」編集幹事会・編集委員会設置運営規則」（以下「設置運営規則」という。）に基づき設置される編集幹事会及び編集委員会の責任のもとに行われる。
- 4 編集幹事会及び編集委員会の運営等は、「設置運営規則」にしたがって行われる。
- 5 本誌の発行は年 1 回以上とする。
- 6 投稿された原稿は、編集委員会で別に定める「「職業能力開発報文誌」編集要領」にしたがって審査し、掲載の可否を決定する。
なお、掲載を決定した原稿については、より一層の内容の充実を図るための補筆、修正を原稿投稿者に要請することがある。
- 7 投稿に当たっては、「報文」、「研究ノート」及び「実践報告・資料」の 3 分類で投稿するものとする。
なお、掲載に当たっては、編集委員会の審査により投稿分類の変更を投稿者に要請することがある。
- 8 投稿される内容は、「報文」「研究ノート」「実践報告・資料」別に職業能力開発に関して次の条件を満たすことが必要である。
 - (1) 「報文」について
報文は、以下の内容を満たすことが必要である。
 - ① 報文として職業能力開発上価値があること（有用性）。または、内容に発展性があること（発展性）。
 - ② 内容に新規なものがあること（新規性）。

③報文として完結した内容を有していること（完結性）。

なお、完結性とは、問題設定、方法、結果、考察、結論等の諸要素を備えた内容であることをさす。

④内容に基本的な誤りがないこと（信頼性）。

(2)「研究ノート」について

研究ノートは、内容水準、完結性、において未だ不十分ではあるが、職業能力開発上一定の価値があり、研究としての発展性を有すると共に、内容に基本的な誤りがないものであることとする。

(3)「実践報告・資料」について

実践報告・資料は、論文の完結性を必要としないが、情報として、職業能力開発上広く価値を有するものとする。

9 本誌への投稿は随時受け付ける。

10 原稿の執筆は、別に定める「「職業能力開発報文誌」執筆要領」によるものとする。

11 投稿者は「原稿連絡票」に必要事項を記入の上、本文原稿に通しページを付け、和文要約、英文表題及び図表（写真を含む）一式を添えて、編集委員会事務局に原稿を提出する。

なお、参考文献等で校閲及び査読上重要と考えられるものは、複写または原本を添付する。

12 上記 11 の本文原稿、要約、英文表題、原稿連絡票及び図表一式の提出部数は、複写 2 部（普通に判読できるものとする。特に写真の場合は、理解に差し支えないように配慮する）とする。原本は著者が保管し、校閲及び査読終了（掲載可）後、作成した最終原稿を事務局に 1 部（写真、図表等の原本一式を添付）提出する。

13 本誌掲載報文等の執筆者には抜刷を贈呈する。

14 本誌に掲載された報文等の原稿は、原則として返還しない。

15 本誌掲載報文等の一部または全部を、学術研究または教育訓練以外の目的で、複製または転載する場合には、当編集委員会の許可を必要とする。

16 「職業能力開発報文誌」編集委員会事務局を職業能力開発総合大学校基盤整備センターに置く。

票 絡 連 稿 原

1. 投稿原稿の表題（和文）

--

2. 投稿者（連絡者）の氏名、勤務先、連絡先

フリガナ			
氏 名			
勤務先名称		電話	()
連絡先住所	〒	メール アドレス	

3. 連名投稿者〔投稿者(連絡者)は共著者の同意(署名捺印)を下欄に得て下さい〕

氏 名	所 属	印	氏 名	所 属	印

4. 投稿の種別〔下欄の番号に○印をつけて下さい〕

種 別	1	報 文	2	研 究 ノ ー ト	3	実践報告・資料
-----	---	-----	---	-----------	---	---------

5. 内容(職業能力開発に関する分野)

職業能力開発に関する分野の内、最も関連する内容と思われるものから、下欄の表の番号に○印をつけて下さい。なお、5 職業能力開発に関する工学的内容および6 その他に該当する場合は、() の中に簡単に記述して下さい。

No.	職業能力開発に関する分野
1	職業能力開発制度に関する内容 (職業能力開発のあり方、職業能力開発施設、関連法律等の内容)
2	教育訓練実施に関する内容 (カリキュラム、指導技法、コース開発、相談・援助、教材開発、評価等の内容)
3	職業能力開発の社会的諸問題に関する内容 (若年者・在職者・高齢者・女性等の内容)
4	職業能力開発に関する国際協力等の内容 (諸外国の職業能力開発、諸外国及び国内での国際協力等の内容)
5	職業能力開発に関する工学的内容（工学的専門分野： ）
6	その他（ ）

6.仕上がり概算ページ数(原則下記のページ数とする。) ページ

「報文」は8ページ以内、「研究ノート」は4ページ以内、
「実践報告・資料」は6ページ以内

7. 投稿原稿の公開状況の確認

(ロ、ハに該当される方は、該当箇所に○印をつけて雑誌名等記入願います。)

- イ 未発表(刊行)原稿
ロ 発表(刊行)済原稿(下記(注)①) 雑誌名等()
ハ 発表(刊行)済原稿(下記(注)②) 雑誌名等()

(注)

- ① 紀要、職業能力開発研究発表講演会、実践教育訓練研究会の発表及び会誌、技能と技術誌で公開した内容であっても、校閲・査読を受けていない原稿
- ② 学会論文誌、論文コンクール入賞作、専門雑誌、一般出版物で公開した原稿

「職業能力開発報文誌」執筆要領

制定 2011 年 10 月

改正 2012 年 4 月

改正 2017 年 4 月

1 原稿全体の体裁・原稿のページ数について

原稿はワープロソフトで作成し、A4 判用紙を縦にして用い、2 段組、1 行 24 文字× 45 行横書きとする。1 ページの文字数は 2160 字とする。余白については上 30mm、下 25mm、左 25mm、右 25mm とする。原稿の 1 ページ目の 15 行までを表題等の記入に充て、次に要約、本文の順に記述する。2 ページ目以降については本文のみとし、最終ページに注記、参考文献を記載する。

(1) 仕上がりページ数 (原則)

- ①「報文」の場合 — 8 ページ
- ②「研究ノート」の場合 — 4 ページ
- ③「実践報告・資料」の場合 — 6 ページ

(2) 図表、写真等は本文に貼り付け、全体で (1) のページ数を満足すること。

2 表題等

原稿の 1 ページ目にカテゴリ分類 (**P ゴシック 14P 太字**)、日本語表題 (**P ゴシック 22P 太字**)、日本語副題 (**P ゴシック 16P 太字**)、所属施設名および著者名・共著者名 (明朝 10P)、英語表題 (Times New Roman 11P)、著者名・共著者名 (ローマ字名 Times New Roman 11P) の順に記述すること。

なお、表題は簡潔にかつ内容が明確にわかるように心がけること。

3 要約

要約の二文字は「**P ゴシック 11P 太字**」、要約本文は「明朝 9P」を用いる。43 字× 14 行、600 字以内、日本語を用いること。

4 本文

(1) 本文の節タイトルおよび小節タイトル

節番号は「**ローマ数字 (Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、・・・) P ゴシック 11P 全角 太字**」を、節タイトルは「**P ゴシック 11P 太字**」を用い、「**Ⅱ ○○○○・・・**」のように記述する。その前後を 1 行空ける。

小節番号は「**算用数字 (1, 2, 3, ...) P ゴシック 11P 全角 太字**」を、小節タイトルは「**P ゴシック 11P 太字**」を用い、「**1 ○○○○・・・**」のように記述する。1 行に納め、その前を 1 行空ける。

さらに細目が必要な場合は、「**P ゴシック 11P 全角 太字**」を用いて、「**1 - 1 ○○ ○○・・・**」「**1 - 1 - 1 ○○○○・・・**」のように記述する。細目番号は「**算用数字 P ゴシック 11P 全角 太字**」を用いる。

<記述例>

1 行空ける	
Ⅱ	○○○○○・・・
.....	
.....。	
1 行空ける	
1	○○○○○・・・
.....	
.....。	
1-1	○○○○○・・・
.....	
.....。	
1-1-1	○○○○○・・・
.....	
.....。	

(2) 「はじめに」と「おわりに」について

本文の初節に「**I はじめに**」を、終節に「**O おわりに**」を記述する。

(3) 図（写真を含む）について

①図は原稿内に作成すること。大きさは原稿用紙の収まる範囲内であれば執筆者の任意とする。

②図中の文字や数字は明瞭に判読できること。

③写真は JPEG 形式（1MB 程度）で貼り付けること。

④写真をデジタルデータ化できない場合は、原稿に貼り付ける際のサイズを明記し、場所を空けておくこと。写真は原稿と同時に提出すること。

⑤図（写真を含む）の番号は「**算用数字 P ゴシック 9P 半角 太字**」を、タイトルは「**P ゴシック 9P 太字**」を用いて、図あるいは写真の下に横書きで、「**図 1 …**」のように番号を記した後にタイトルを記入する。図と写真は通し番号とする。

⑥写真の印刷仕上がりはカラーである。

(4) 表について

表は原稿内に作成すること。サイズは、原稿用紙に収まる範囲内であれば執筆者の任意とする。表番号は「**算用数字 P ゴシック 9P 半角 太字**」を用いて、タイトルは「**P ゴシック 9P 太字**」を用いて、表の上に横書きで、「**表 1 …**」のように番号を記した後に表名を記入する。表中の文字や数字は明瞭に判読できること。

(5) 図および表について

図表は本文との間に空行を 1 行入れる。ページの間には配置せず、上か下に置くことを推奨する。また、必要により段組みを一部解除し、1 頁の左右にまたがる配置としてもよい。

図表にはメモリを表記し、本文中で説明する。

(6) 引用資料について

本文中に入れる資料等の引用文章を、文字のポイント数を落として記述したい場合は、その部分に赤線でアンダーラインを引き、注記する。

なお、引用資料及び参考文献等で入手が困難な場合は、投稿時に、その原本または複写したものを添付する（校閲及び査読終了後返却）。

5 注記について（記述例参照）

本文中にハイフンで挟んで入れる注以外の注記は、一括して本文の最後に次の要領で書くこと。タイトル【注】の文字は「P ゴシック 9P 太字」を用い、【注】の文字の左右を「[]」で括る。（注1）以下は「明朝 9P」を用い、「注○」の文字の左右を括弧でくくる。注記番号は「算用数字 Times New Roman 9P」を用いる。

<記述例>

[注]
(注 1)
(注 2)
:
:
:

なお、本文中においては、注記番号は注記をつける言葉または文の右肩に、「○○^(注1)」のように、左右を括弧でくくり、上付で書く。

6 参考文献について（記述例参照）

参考文献は一括して本文の最後に、次の要領で書く。タイトル【参考文献】の文字は「P ゴシック 9P 太字」を用い、【参考文献】の文字の左右を「[]」で括る。（1）以下は「明朝 9P」を用いる。文献番号は「算用数字 Times New Roman 9P」を用いる。また、本、雑誌、複数のページの場合など、記述例を詳細に示すこと。

本文中においては、文献番号は参考文献をつける言葉または文の右肩に、「○○⁽¹⁾」のように、左右を括弧でくくり、上付で書く。ページは「p. ○○」、複数の場合は「pp. ○○-△△」のように書く。URL は、括弧なしで記述。著者名の姓名の間にはスペースを入れない。参考文献の最後は「。」を用いる。

<記述例>

[参考文献]
(1) □□職業能力開発審議会△△、「……」、平成…年、p. ○
(2) 職業能力開発総合大学校基盤整備センター 調査研究
報告書「……」、平成…年、pp. ○○-△△…
:
:
:

7 文中の文字について

- (1) 本文は、日本語を用いること（他言語不可）。
- (2) 本文は、「である調」とする。
- (3) 句読点は「、」「。」を用いる。
- (4) できるだけ常用漢字、現代かな使いを用いる。
- (5) 日本語のフォントは「明朝 9P」とする。
- (6) 英文、英略字（ME、CAI 等）は「Times New Roman」を用いる。

〔例〕 ME、CAI、

Summary of the Results of the “Study on the Development…………

- (7) 数字は「算用数字 Times New Roman」を用い、3 桁毎にコンマを入れる（但し、西暦

年代にはコンマは不要)。また、漢字と結合して使用する場合は漢数字を用いる。

〔例〕 1,050 円、15.4%、3,213,000 人、2009 年 2 月 14 日

一つの、一例を挙げると

- (8) 小数点以下の桁数は、比率をパーセントは小数点以下の 1 桁、相関係数、因子負荷量等は小数点以下の 3 桁が、一般的な有効桁数である。

8 単位・記号・数値等について

- (1) 単位は原則として国際単位系 (SI) を用いる。数字は「算用数字 Times New Roman」を用い、単位記号は「Times New Roman」を用いる。

〔例〕 5MPa、9.8N

- (2) 量を表す数字は「算用数字 Times New Roman」を、量を表す記号は「Times New Roman」の斜字体を用いる。

〔例〕 量を表す数字 20、15.4、3,213,000

量を表す記号 $a, b, c, d, \dots, u, v, z, y, z$

9 数式について

- (1) 数式は「Times New Roman」の斜字体を用い、大文字・小文字・上付・下付などがはっきりわかるように記述する。

- (2) 式中での括弧の順序は原則として { [()] } とする。

- (3) 式が途中で切れる場合は、改行のはじめに $\times \cdot / \cdot + \cdot -$ 等をつける。

- (4) 数式は各式の右端に ……(1)、……(2) のように通し番号をつける。本文中では式 (1)、式 (2) のように記述する。式番号は「算用数字 Times New Roman 9P」を用いる。

- (5) 分数については、式中では $\frac{a+b}{c+d}$ 、文中では $(a+b)/(c+d)$ のように入力する。

<数式の記述例>

$$S_2 - S_1 = \int_1^2 \frac{dQ}{T} \quad \dots\dots(1)$$

$$\dot{m} = P_c A_t \sqrt{\frac{\gamma}{RT_c} \left[\frac{2}{2+\gamma} \right]^{\frac{\gamma-1}{\gamma+1}}} \quad \dots\dots(2)$$

なお、日本語ワープロの「数式エディタ」などを活用すると、容易に数式を書くことができる。

10 記述例

執筆は次項以降の「文字の大きさ及びフォント等」及び「記述例」を参照のこと。

11 原稿（報文誌）テンプレートについて

ページ設定を参照のこと。(文字数は24文字、字送りは9 P、行数は45行、行送りは15.2 P)

文字の大きさ及びフォント等

カテゴリ分類	Pゴシック	14P	全角	太字	左詰め
日本語表題	Pゴシック	22P	全角	太字	中央揃え
副題	Pゴシック	16P	全角	太字	中央揃え
所属施設名、部署名、 著者名、共著者名	明朝	10P	全角		右詰め
英語表題、副題、著 者名、共著者名	Times New Roman	11P	半角		
要約タイトル	Pゴシック	11P	全角	太字	左詰め
要約本文	明朝	9P	全角		左詰め
本文	明朝	9P	全角		
本文 節番号	Pゴシック（ローマ字）	11P	全角	太字	左詰め
本文 節タイトル	Pゴシック	11P	全角	太字	左詰め
本文 小節番号	Pゴシック（算用数字）	11P	全角	太字	左詰め
本文 小節タイトル	Pゴシック	11P	全角	太字	左詰め
英文・英略字	Times New Roman	9P	半角		
数字	Times New Roman（算用数字）	9P	半角		
数式	Times New Roman 斜字体 （＝イタリック）		半角		
図・写真 番号	Pゴシック（算用数字）	9P	半角	太字	図・写真の下中央
図・写真 タイトル	Pゴシック	9P	全角	太字	
表 番号	Pゴシック（算用数字）	9P	半角	太字	表の上中央
表 タイトル	Pゴシック	9P	全角	太字	
注 番号	Times New Roman	9P	半角		左詰め
注 タイトル	Pゴシック	9P	全角	太字	左詰め
注 記述部分	明朝	9P	全角		左詰め
参考文献 番号	Times New Roman	9P	半角		左詰め
参考文献 タイトル	Pゴシック	9P	全角	太字	左詰め
参考文献 記述部分	明朝	9P	全角		左詰め

V ○○○○○○○○○○

1 ○○○○○○

本文：2段組、明朝 9P、
24 文字×45 行、1 ページ 2160 文字
英文・英略字は Times New Roman、
数字は 算用数字 Times New Roman を用いる。

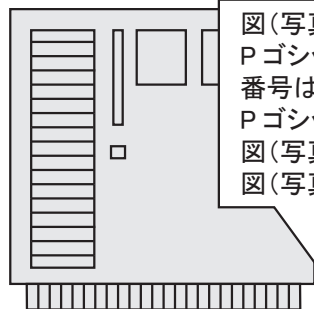


図 5 △△△△△△△△△△△△

図(写真を含む)：タイトルは
P ゴシック 9P 太字、
番号は算用数字
P ゴシック 9P 太字半角、
図(写真を含む)の下に記入、
図(写真を含む)は通し番号

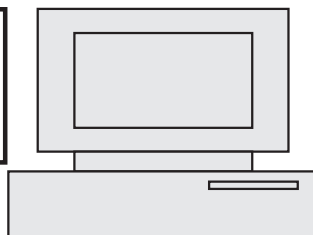


図 6 △△△△△△△△△△△△

図表は本文との間に空行1をとる。ページの
中間には配置せず、上か下に置くことを推奨
する。また、必要により段組みを一部解除し、
1 頁の左右にまたがる配置としてもよい
(例：通巻 48 号の 36 頁)

VI おわりに

注：タイトルは
P ゴシック 9P 太字

注：明朝 9P
注釈番号は Times New Roman 9P

[注]

- (注 1) A 社における開発部は、製品の企業開
(注 2) A 社の製品製造事業部は…

参考文献：タイトルは
P ゴシック 9P 太字

[参考文献]

- (1) ○○県企業庁発行、○○県中小企業支援事業計画、
20××年□月、pp. △△-○○…
- (2) 職業能力開発総合大学校基盤整備センター調査研
究報告書第△△号「職業能力開発に関する相談援
助、情報提供の実態調査」、平成○年×月、pp. □
□-△△…
- (3) ○○省、平成××年度○○基本調査、
<http://www.○○.html> 参照：20××年□月
- (4) 著者名、論文名、誌名、号数、*×年、p. △△
- (5) 著者名、書名、出版社名、○○年、pp. ◇◇-
□□

参考文献：明朝 9P
文献番号は Times New Roman 9P

原稿(報文誌)テンプレートのページ設定
文字数は 24 文字、字送りは 9 P、行数は 45 行、
行送りは 15.2 P

2 ○○○○○○

表：タイトルは
P ゴシック 9P 太字、
表番号は 算用数字
P ゴシック 9P 太字 半角、
表の上に記入

資料等の場合

報告書等の場合

ホームページの場合

論文誌等の場合

書籍等の場合

表 3 △△△△△△△△△△△△

人数		1995年		1998年		2000年		2004年		2006年		2008年	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
非正規社員	正社員												
	契約社員												
	パート												
	アルバイト												

平成 29 年度職業能力開発報文誌編集幹事・編集委員一覧

【編集幹事会座長 兼 編集委員長】

内田 修一 職業能力開発総合大学校基盤整備センター 所長

【編集幹事】（敬称略五十音順）

遠藤 龍司	職業能力開発総合大学校 教務部長
下町 弘和	北海道職業能力開発促進センター 所長
進藤 裕英	東北職業能力開発大学校 校長
瀧原 祥夫	千葉職業能力開発促進センター高度訓練センター長
塚本 眞也	中国職業能力開発大学校 校長
矢野 昇平	中国職業能力開発大学校附属福山職業能力開発短期大学校 校長
藁科 恭典	機構本部公共職業訓練部 次長

【編集委員】（敬称略五十音順）

伊賀 昌久	職業能力開発総合大学校
岩永 禎之	四国職業能力開発大学校
河瀬 博之	沖縄職業能力開発大学校
坂尾 英行	職業能力開発総合大学校基盤整備センター
佐々木英世	関東職業能力開発大学校
三浦 誠	北海道職業能力開発大学校
村上 智広	職業能力開発総合大学校
望月 隆生	近畿職業能力開発大学校

編集委員会だより

- 当誌への投稿は、(独) 高齢・障害・求職者雇用支援機構職員であればどなたでも可能です。
- 巻末に掲載した「投稿のしおり」に基づき執筆をお願いします。
- 投稿は随時受け付けています。
- 投稿された論文は審査終了後、最寄りの号に掲載されます。
- 当誌の内容は、基盤整備センターホームページ「報文誌・年報・その他の刊行物」から閲覧、ダウンロードできます。
URL : <http://www.tetras.uitec.jeed.or.jp/>
- 投稿に関する問い合わせは、事務局（職業能力開発総合大学校 基盤整備センター 企画調整部 企画調整課）までお願いします。

職業能力開発報文誌 第30巻第1号(通巻49号)

発行	2018年3月
編集・発行	職業能力開発総合大学校基盤整備センター 〒187-0035 小平市小川西町2-32-1 TEL 042-348-5074 (企画調整課)
印刷	社会福祉法人 東京コロニー コロニー東村山印刷所 〒189-0001 東京都東村山市秋津町2-22-9

BULLETIN OF HUMAN RESOURCES DEVELOPMENT

Vol.30 No.1 (49) (2018)

<BULLETIN>

Digital Watermark made by Orthogonal Functions

Takayuki SASAKI *

Structural Performance of Mud-wall and Experimental Verification on
Effect of Repairing Mud-wall Which Underwent Large Deformation in
the Northern Kanto Area.

Takashi YAMANOUCHI *

<RESEARCH NOTE>

Nondestructive discrimination of internal browning in apples by
optical technique

Shuetsu TAKAI

Development of 3D Interface for Hand-Bells Performance Robot

Yoshichika OKUDA

Countermeasures against snow or ice accretion on LED traffic lights

Motokazu NISHINO

<REPORT>

The Report of the old private house plaster wall having an
earthquake disaster restoration, farmhouse type gate of a tenement
house style

Masahiro HOSHINO

*representative

<The rules for contributors>